

保護者の子育ての情報収集に関する 意識調査

こころ研

子ども子育て研究室

目次

1. 調査にあたって
 - ・本レポートの目的
 - ・調査概要
2. 母親と父親の子育てにおける情報収集に関する価値観・意識
3. 母親と父親の家庭での役割・関係性から見えるもの
4. 子育て家庭を取り巻く人々の現状
5. 終わりに

1. 調査にあたって

本レポートの目的

フレーベル館は今後、「『子どもたちの豊かな未来』創造のため、『子育て』に関わる全てを支援し、リードしていく存在となる」ことを会社の目指すべき姿に掲げています。

今回、子育ての実情をより知るために、母親と父親をターゲットに、「子育てに関してどのような内容をどのような方法で得ているか」に着目しインタビューを行いました。

また、これまであまり取り上げられることがなかった子育て家庭を取り巻く周囲の人々についても調査し、レポートにまとめています。

子育てに関わる人々の実態を知り、そこに隠れている課題を洗い出すことで、「子どもたちの健やかな育ちを支える」ために、我々にできることは何かを考えるきっかけになればと思います。

調査概要

調査①

目的

母親や父親が子育て情報について、どのような内容を、どのような方法で得ているのかその実態と具体的な内容を把握する

対象者

0-2歳児の子どもがいる保護者

計16名

女性 8名（共働き家庭6名うち育休中1名、専業主婦家庭2名）

男性 8名（共働き家庭8名）

期間

2021/5/13-6/5

方式

オンライン（zoom）でのデプスインタビュー形式にて実施

調査②

目的

子育て家庭を取り巻く人々が、子どもや子育て家庭に関することについて、どのような情報をどのような方法で集めているのかを知る

対象者

乳幼児の姪、甥がいる人20～30代の男女

計5名

女性 3名、男性 2名

期間

2021/5/13-6/5

方式

オンライン（zoom）でのデプスインタビュー形式にて実施

2. 母親と父親の子育てにおける情報収集に関する 価値観・意識

1. 母親

母親については子育てにおける情報収集に関する価値観や、抱えている問題などから4つのパターンが見えてきた。

Aグループ

共働き家庭。子は2歳未満。
子育ての情報収集は頻繁にしておりインターネットやInstagramを活用している。
夫と情報共有をすることもあるが、同じ思いになれていないと感じていることが多い。

Bグループ

共働き家庭。子は2歳未満。
子育て情報は、インターネットで検索をしたりTwitterで情報を見ることもある。夫と情報共有をしても、考えが同じにならないと諦めているため、話し合いに労力をかけることが無駄だと思っている。

Cグループ

育休中や専業主婦家庭。第1子は2~3歳、第2子は1歳未満。
子育て情報のインターネットでの検索は必要に応じてしている。
夫との情報共有も都度行い、夫婦間の役割分担には満足している。

Dグループ

専業主婦家庭。第1子は3歳以上。第2子は1歳未満。
インターネットでの検索よりも本で情報を見る傾向がある。
夫との情報共有は必要に応じてしており、特に問題を感じていない。

全ての母親に共通していた事は以下の3点であった。

- ・子どもにの育ち（特に発達）については**何が平均か、普通かどうか分からないため調べる**傾向がある。
- ・**産後よりも妊娠期の方が**、目に見えないことが多く不安な気持ちがあることや、時間に余裕があることから情報を調べる頻度が高い傾向がある。
- ・子ども・子育てに関する**情報収集の主体は妻**になっている（直接情報を得る機会が多い）。

次ページ以降では、各グループごとの価値観や抱えている問題を詳しく見ていく。

1. 母親

Aグループ

共働き家庭。子は2歳未満。
子育ての情報収集は頻繁にしており、インターネットやInstagramを活用。
夫と情報共有をすることもあるが、同じ思いになれていないと感じていることが多い。

ベースにある価値観

共働き家庭であることの影響か、**子育ては夫婦でやるものだ**という意識が強い。
しかし実際には、夫よりも自分の方が負担が多く、2人で子育てをしていないと感じている。また、**夫の子育てに対する当事者意識が低く**
家事育児に積極的でないと感じるため**不満を抱えている**。
その分、夫も積極的に家事育児を行っていると感じられた時は、とてもうれしく感じている。

抱えている問題

産後、身の回りのことが自分一人でコントロールできなくなり、体調・精神面で不安定になった

産前は身の回りのことなど仕事も家のことも上手くやりくりしていたが、子どもが生まれてからは自分一人でコントロールできなくなってしまった。子育てや仕事に追われ自分のことを改めて振り返る時間もないため、日々の中で自分でも気付かないうちにストレスなどが積み重なり体調面や精神面でも安定しないことが増えてしまった。

子育て情報に関する問題

子育ての情報交換をしたり相談できる相手がない

人に頼ることが苦手で、人に迷惑をかけてはいけなしいと思っているため、子育てにおいて夫や実の両親以外に悩みを相談したり、ちょっとしたことを話したりする機会があまりない。

子育てに関するポジティブな情報を得られない

子育てにおいて不安になることが多いため、ポジティブになれる情報を求めてインターネットで検索をするがあまり得られていない。

1. 母親

Bグループ

共働き家庭。第1子は2歳未満。

子育て情報は、インターネットで検索をしたり、Twitterで見ることもある。

夫と情報共有をしても、考えが同じにならないと諦めているため、話し合いに労力をかけることが無駄だと思っている。

ベースにある価値観

夫婦は平等な存在であるから、子育てに関しても平等であるべきだと考えている。

実際は平等になっていないため満足しているわけではないが、人を変えることはできない、完全には理解し合えないと思っている。そのため、自分なりの妥協点や解決策を考えるなどして、**自分を納得させようとしているが不満は残っている。**

抱えている問題

夫と子育ての役割分担を平等にできていない

夫と子育てを平等にしようと努力したができなかつたため、諦めて自分なりの代替案を見つけているが、本当は平等にして根本的な解決をしたいと思っている。平等にできていないため、自分の子育てでいっぱいになっている現状がある。

子育て情報に関する問題

子育て情報の供給過多により、情報の取捨選択が手間になっている

子育てにおいても人それぞれであるから、人の経験談などを聞いても役に立たないと思っている。本当は専門家が発信しているなど信頼のおける情報かつ、自分の状況や考え方に合っている情報に最短距離でたどり着きたいと思っているが、特にインターネット上には情報があふれており、その中から自分で取捨選択しなくてはならないため難しいと感じている。

1. 母親

Cグループ

育休中や専業主婦家庭。第1子は2～3歳、第2子は1歳未満。
子育て情報のインターネットでの検索は必要に応じてしている。
夫との情報共有も都度行い、夫婦間の役割分担には満足している。

ベースにある価値観

子育ての中心は母親だと思っており、自ら進んで子育てをやっているため、夫婦の役割分担に対して**不満がほぼない**。
周囲の協力が十分にあることや、第2子ということもあり子育てもある程度自分のペースで行えているため、気持ちに余裕を持つことができる。

抱えている問題

人との繋がりがもてないとストレスを感じる

一人で家に閉じこもっているのは性に合わない。人との関わりを強く求めているので、産前産後やコロナ禍のように人とつながることが難しい状態はストレスを感じる。

子どもと言葉以外のコミュニケーションを取ることが苦手

子どもと一対一で向き合うことが苦手で、特に言葉が話せない時期など意思疎通が難しい時期は関わり方について悩む傾向がある。

子育て情報に関する問題

子育てにおいて人と違うことが不安要素になっている

子育てで悩んだ際に人と同じかどうか気になってしまう。人の体験談等を読むなどして自分と似た境遇の人を探し、自分一人ではないという事が分かるまで安心感が得られない。

子ども子育てに関する知識が少ないため見通しを持ちにくい

終わりの見えないことに対してストレスを感じやすいため、子育てで初めて困ったことに関しては見通しが持ちにくくつらく感じる。いつになれば終わるのか調べることで見通しを持ち不安を解消したいと考えている。

1. 母親

Dグループ

専業主婦家庭。第1子は3歳以上。第2子は1歳未満。
インターネットでの検索よりも、本で情報を見る傾向がある。
夫との情報共有は必要に応じてしており、特に問題を感じていない。

ベースにある価値観

こうありたいという母親像が自分の中にある。

子育てにおいて間違えてはいけないというプレッシャーが強く、**他人からの子どもに対する評価が自分への評価でもある**と考える傾向がある。

抱えている問題

子育てにおける自分の対応について常に正しさを求めてしまう

子育ての基本的な考え方については知識として学んではいるが、常に正しさを求めている。子どもへの関わり方等、具体的な場面でどうしたら良いのかなどに都度悩み、自信が持てずにいる。

子育て情報に関する問題

子育てにおいて臨機応変に対応することが苦手で、都度対応策を調べなければ安心できない

子育てにおいて1つの正解はないと分かってはいるが、本当は子育てについて、こうすればこう子どもが育つといった一つの正解やマニュアル本が欲しいと思っている。臨機応変に対応することが苦手なため、困った場面に遭遇するたび保育や子育ての専門家の場面ごとに応じた具体的な対応策の事例を調べている。

2.父親

父親については子育てにおける情報収集に関する価値観や、抱えている問題などから3つのパターンが見えてきた。

Aグループ

共働き家庭。子は1歳未満。
子育ての情報は、よくインターネットで検索しており、妊娠期から妊婦や子どものことについて情報を集めていた。
妻ともよく情報共有し子育てのことについて話しており、お互いの考えに納得している。

Bグループ

共働き家庭。子は2歳未満。
子育ての情報は、自分が子育てをする中で実際に困った時や疑問に思った時に都度インターネットで調べている。
妻と子育てについてきちんと話すことはあまりなく、自分の知りえた情報を伝えても妻の反応が良くないためあまり共有しない。

Cグループ

共働き家庭。子は2歳未満。
子育ての情報は、自分からはあまり調べることはなく、自治体などから得られる情報を見ている。
妻と家事や子育てのことについて話し、基本的に妻から情報を得ており、特に問題は感じていない。

全ての父親に共通していた事は以下の2点であった。

- ・ 共働き家庭での子育てに関して**ロールモデルとなるような人物が身近にいない**
- ・ 直接的に子育てに関する情報を得る機会が少なく、**妻を経由しての入手が多くなっている**。
- ・ 妻と比較して、子育てよりも仕事に関連した情報や趣味の情報を得ることが多い。

次ページ以降では、各グループごとの価値観や抱えている問題を詳しく見ていく。

2.父親

Aグループ

共働き家庭。子は1歳未満。

子育ての情報については、よくインターネットで検索しており、妊娠期から妊婦や子どものことについて情報を集めていた。妻ともよく情報共有し、子育てのことについて話しており、お互いの考えに納得している。

ベースにある価値観

子育ては父親である自分も役割を担うのが当然だと考えているため、家事や育児を行うことについて特別なことだ感じていない。妻も子ども一人の人として尊重しているため、それぞれの立場に立ち物事を捉えようとする傾向がある。

抱えている問題

妻が自分の家事育児について満足しているか自信はない

夫婦が対等な存在であることが当たり前であり、家事育児も当然の行為になっているからこそ、妻が自分の家事育児に対してどう思っているのか改めて聞く機会もなくなっている。

子育て情報に関する問題

子育てについての基本的な知識がないため、何から調べれば良いのか分からない

子育ては初めてのことなので、見通しを持って万全な準備をしたいと思っているが、子育てについてベースとなる知識がないため何から調べれば良いのか分からないのが現状である。

2.父親

Bグループ

共働き家庭。子は2歳未満。

子育て情報は自分が子育てで実際に困った時や疑問に思ったときに都度調べている。

妻と子育てについてきちんと話すことはあまりなく、自分の知りえた情報を伝えても妻の反応が良くないためあまり共有しない。

ベースにある価値観

共働き家庭であるので父親である自分も育児に参加すべきなのだろうという意識を持っている。

自分のできる範囲で子育てに参加しているつもりだが、**無意識下で子育ての主体は母親だ**と思っている。

抱えている問題

産後の妻の状態の変化に戸惑い、妻との関係性が悪化している

元々人の状況や気持ちを察したり理解することが苦手なため、子どもが生まれてからの妻の体調面や精神面での変化を理解できず戸惑っている。その結果、妻との関係性が上手くいっていないことに悩んでいる。

妻と子育てについて話し合えていない

妻とは感情的な話し合いではなく、建設的な話し合いをしたいと思っている。しかし妻には余裕がなく現実には感情的なやり取りになりやすい。元々人と話し合うことが苦手なこともあり、話し合うこと自体を避けてしまう傾向がある。

子育て情報に関する問題

父親同士での情報交換の機会がない

子育てをしている父親とのつながりが希薄であり、自身と同じ状況の父親と交流したり共感できるような話を聞く機会がない。

子育ての情報収集には消極的な傾向がある

無意識下では子育ての主体は母親であると考えているため、自ら進んで情報を得ようと行動を起こすことは少ない。

2.父親

Cグループ

共働き家庭。子は2歳未満。

子育て情報については自分からはあまり調べず、自治体などから得られる情報を見ている。

妻と家事や子育てのことについて話しており、基本的に妻から情報を得ている。そのことについて特に問題はないと考えている。

ベースにある価値観

子育てについては夫婦で担うものと思っており、そのことについて改めて意識することもない。子どもも一人の人間であるので親の都合で怒ったりするのは良くないと考えている。

抱えている問題

人に気を遣いすぎる傾向があるため、人に頼ることが苦手

自らが周囲に対して気を遣いすぎる傾向があり、人に頼ったり心を開いたりすることが苦手なため、子どもの教育（子どもにどう伝えるか）という部分において不安を抱えている。

子育て情報に関する問題

子育て情報に対しては受け身で、専門家の情報を鵜呑みにする傾向がある

子どもや子育てについて基本的な知識を持っていないが、自ら調べることはほとんどなく、妻から聞いた情報をそのまま受け止めたり、特に専門家の言っていることに対しては鵜呑みにする傾向がある。

子育ての情報収集に関する課題

母親と父親どちらも共通して置かれている状況から2つの課題が見えた。

課題① 夫婦共に、子育てに関する情報を得られる

妊娠や子育てに関する情報は、直接得る機会が母親の方が多く、父親は少ないのが現状である。母親は妊娠期から妊婦として、自治体や病院といった場所に赴き話を聞いたり情報を得たりする機会が多いことや、そもそも妊娠や子育てに関わる情報の大半が母親向けのものになっていることが大きく影響していると 考えられる。

そのことにより、夫婦間で子育てに対する意識の差が生まれ、情報を得たい人も情報が得にくい状況になっていると考えられる。

解決の方向性

父親向けの情報発信の強化

父親向けの情報を発信したり、企業で社員研修の実施などにより夫の所属するコミュニティへ直接アプローチする等、妊娠や子育てに関する情報を得られる 機会を増やす必要があるだろう。

より男性目線に寄り添った内容も発信していくことで、子育てに対して前向きになれる支援をしていきたい

課題② 自らの子育てを肯定できるようになる

今親になっている世代は、何事にも1つの正解があることが当たり前の教育で生きてきた。

実際に子育てをしたり子育てに関する情報を得ていく中で、子育てには絶対の正解がないものだ気付いていくこともある。しかし正解はないと理解はしても、自分自身の子育てに自信を持たず不安感があるため、正解を探してしまう傾向がある。

解決の方向性

自分の子育てに自信を持てるようなサポート

親が子育てに正解はないという事を知ったうえで、自信を持って子育てをできるようなサポートが求められるだろう。

そのためにも、子育ての仕方等の方法論を教えるのではなく、親自身の行う子育てに共感、肯定することで親が自信を持ち安心して子育てできるような支援をしていきたい。

3. 母親と父親の家庭での役割・関係性から見えるもの

母親と父親の家庭での役割や関係性から見える課題

母親と父親の中でも、特に子育て情報について夫婦間での共有や役割分担が上手くいっておらず、困っていると考えられるグループ同士（母親：Aグループ、父親：Bグループ）を比較することで、根底には人間関係や夫婦関係に関する問題があるのではないかと見えてきた。

人間関係や夫婦関係に関する問題と課題

問題① 自分の思いを相手に上手く伝えられない

話し合う際に感情的になってしまうなど、自分の思いの言語化が苦手なため、最も伝えたいことが相手に伝わらないという事態が起きている。そのため、夫婦間でも思いのすれ違いが出てくるなど夫婦関係の悪化につながっている。

問題② 夫婦共に親の意識が芽生えるタイミングにずれがある事を理解していない

妻が妊娠期から心身ともに親の意識が芽生えていくのに対し、夫は妊娠期からは親としての意識を持ちにくい。親の意識が芽生えるタイミングがズれることで、親としての意識が強い妻と、まだ意識が薄い夫との間で目線が異なり、夫婦間のコミュニケーションでもずれが起きやすくなっている。

問題③ 人と協同する中でお互いが納得できる解決策を見つけられない

夫婦間で思いがすれ違っていても、2人の間で納得できる解決策を話し合うことが出来ていない。子育てという正解のないことに対して話し合うこと自体を負担に感じてしまうため、子育てで余裕がない状況では特に話し合うこと自体を避けがちになってしまっている。

様々な要因が重なり合うことで、産前と比較して夫婦関係が悪化していると考えられる。根本的な課題として下記があげられるのではないかと見えてきた。

課題

夫婦関係に関する問題の解決

母親と父親の家庭での役割や関係性から見える課題の解決の方向性

夫婦関係に関する問題の解決について考える。

解決の方向性①

自分のことを振り返り、整理する機会の提供

相手に思いを伝える前に、普段なかなか意識をすることがない、自分自身のことや子育てのことを振り返り整理をすることで、自分自身を見つめ直す機会が必要だろう。自分自身を客観的に振り返ることで新たな気づきを得たり、子育てに余裕を持つことにもつながる事が期待できるのではないだろうか。

解決の方向性②

夫婦で話し合ったり、お互いに向き合い、相手のことを理解する時間の創出

子どもから離れて、自分自身の好きなことが出来る時間を作るだけではなく、夫婦で話し合う時間を作ることも必要だと考えられる。第三者や専門家が間に立つ等することで、普段はなかなか上手くできない夫婦での話し合いを円滑にし、お互いを理解する支援をすることができるのではないだろうか。

解決の方向性③

正解のないことに対して、夫婦二人で解決していく経験のサポート

子育てや家事以外のことで、改めて夫婦で共同で何かをする機会が重要だと考えられる。遊びという正解のないことに関連して2人で考える等、我々にしか出来ない視点での方法を提供することで、子育てに対して前向きになれるような支援をしていきたい。

夫婦関係に関する問題の解決が、子育て支援に繋がる

子育て支援というと、子どもに関する支援をイメージしがちだが、夫婦関係の問題を解決することも結果的に子どもの良い育ちにつながると思われる。親自身が余裕を持ち、子どもや子育てに向き合える環境を作り出していくことが重要だろう。そのために我々ができることを常に考えて、実行していきたい。

4. 子育て家庭を取り巻く人々の現状

子育て家庭を取り巻く人々の現状

子育て家庭を取り巻く人々の子育て家庭に対する思いや、子どもへの関わりなど様々なことが見えてきた。

子育て家庭に対する思い

自分のきょうだいになったことで、初めて子育てや子どもが身近な存在になった。子育てが大変なことだと実感したため、手助けをしたいという思いが生まれた。

しかし、あくまで親族に対してのみであり、他の子育て家庭に対しても積極的に手助けをするわけではない。

また、子育ては親の方針があると思っているため、その思いを尊重したいと考えている。子どもや子育てに関わる時間が限られている自分だからこそ、子どもと遊ぶことだけに集中したり、親が子育てから離れる時間をつくるなどできることもあると感じている。

子ども・子育ての知識に関する問題

子ども・子育てについて詳しく知る機会がないままに親になる

子どものことに関して知る機会がないため、子どもの発達やかかわり方など、分からないことが多い。

身近な家庭が子育て家庭になっても、当事者ではないため、子どもや子育てについて自ら調べたりすることはなく、子育てをしているきょうだい、または自身の親から聞く程度で、知識はあまり深まらない状態がある。その結果、自分が親になった時に困り、不安に襲われる。

子ども・子育てに関わる機会に関する問題

実際に子ども・子育てに深く関わる機会が少ない

多くの人が自身のきょうだいなど身近な人が子育て家庭になるまで、子どもや子育てが身近にないことが多い。自身の友人が親になることがあっても、おむつ替えやお風呂に入れるなど、子育てに深く関わることはほとんどない。

子どもや子育て家庭と深く関わることになって初めて、子育ての具体的な大変さを知り体験したり、子どもや子育てに対する具体的なイメージを持てるようになる。

子育て家庭を取り巻く人々の現状から見える課題の解決の方向性

子育て家庭を取り巻く人々の現状から見える課題について考える。

課題

子ども・子育てについて知識を得たり、実際に関わる機会を得る

解決の方向性①

子育て家庭当事者以外の人々へのアプローチ

子育て家庭当事者のみならず、子育て家庭以外の人々に対しても働きかけていくことが必要だと考えられる。企業の中で、子育て家庭が働きやすい職場とは何かを考えるきっかけを提供したり、子育てをすることで得られる力などを伝えたり、子どもや子育て家庭に対してポジティブな感情を得られるようにすることで、子どもを産み育てやすい社会を作り出していくことも重要だろう。

特に子育てが身近にない人にとっては、自身の生活圏内にはなかなか情報が入ってきにくい、興味を持ちにくい情報になっているため、企業の社員研修などある程度の強制力が必要だと考えられる。

解決の方向性②

中高生、大学生の授業の一環やイベントとして子どもや子育てについて知る機会の提供

現代社会では、自分自身が親になるまで、子どもや子育てについて知ったり関わったりする経験が殆ど得られない。これから親となっていく世代も、子どもや子育てについて知る機会を得ることが重要であると考えられる。また、子どもがどのように発達していくのか、どのように子どもと関われば良いのかなどを知識として得るだけでなく、園と連携した子どもと触れ合う機会の創出などもできるのではないかと。

5. 終わりに

終わりに

今回調査をした結果、子育て中の親の悩みは共通するものもあるけれど、それぞれの考え方・価値観や状況があり、異なる悩みも抱えていること、夫婦間の関係性が子育ての悩みに影響している場合があること、また子どもや子育てに触れることや、深く知る機会があまりなく親になってしまふという社会的な問題があることなどが見えてきました。

そんな中、私たちは、

- ・子育て中の親のことをどのくらい知っていると言えるだろうか。
- ・そもそも「知ろう」としてきただろうか。
- ・思い込みで、「子育て中の親のイメージ」を勝手に作っていなかっただろうか。
- ・「子育てで親が頑張るのは当たり前」と、無意識な圧力をかけていなかっただろうか。
- ・子育てにおける細かい問題に目を向けてきただろうか。

など、疑問が浮かび上がってきました。

本当の意味で「子育てに寄り添っていくにはどうあるべきか」を考え続けていくことが、「子育て支援」であり、「子どもたちの健やかな育ちを支えること」になるのではないかと私たちは考えています。